



- ◆ 東日本大震災をはじめ、熊本広域大水害が私たちに与えた影響は大きく、改めて「防災」について考え直す機会となりました。自然災害では、想定した被害を超える災害が起こる可能性が常にあります。今後の防災教育は、想定を超えた場合の行動や対応について考え、周りの状況に応じ、児童生徒が自らの命を守り抜くため「主体的に行動する態度」を身につけることが極めて重要になってきます。

そこで、「災害に適切に対応する能力」の基礎づくりとして、自然災害への備え、対応の仕方、災害発生のメカニズム等についての知識や取組を定期的に紹介していくために「学校防災通信」を作成しました。

梅雨期からの災害について

風水害から身を守る



集中豪雨が発生しやすいとき！

- 前線が停滞しているとき（特に梅雨期の終わりごろ）
- 台風が近づいているときや台風が上陸したとき
- 次々と雷雲が発生しているとき（特に陽射しの強い夏ごろ）



台風や大雨は、事前の予測が可能です。情報収集と早めの避難
〈みんなで防災！ガイドブック 熊本県から〉



知っているか？

自然災害とは？

- ◆ 自然災害とは、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害のことです。

防災教育の充実を目指す県教育委員会の取組

○実践的防災教育総合支援事業(文部科学省委託事業)

実践モデル校 八代市立郡築小学校 八代市立第七中学校 八代市立八代支援学校

○防災教育研究推進校

研究指定校 八代市立坂本中学校

○防災教室講習会の実施(学校安全教室講習会)

平成26年8月6日(水) 県立劇場演劇ホール

- ◆ 自分の命を自ら守るため、日頃から**防災**に関心を持ちましょう
- ◆ 中高生は地域のために貢献できる存在です。**地域の行事等**へ積極的に参加しましょう

学校 防災 通信



平成26年8月5日号
熊本県教育庁教育指導局体育保健課

熊本県教育委員会の取組から実践的防災教育総合支援事業について紹介します。

事業のねらい

児童生徒等が、自然災害発生時の危険に際して自らの命を守り抜くため、「**主体的に行動する態度**」の育成、**科学技術を活用した防災教育**の推進、**社会づくりに貢献する意識**の向上を目指し、文部科学省の委託事業として本事業を推進しています。

主な事業内容

◎緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練等の実施

- ・地震発生時に児童生徒等に落ち着いて行動する態度を身に付けさせる取組

◎学校防災アドバイザーの派遣・活用

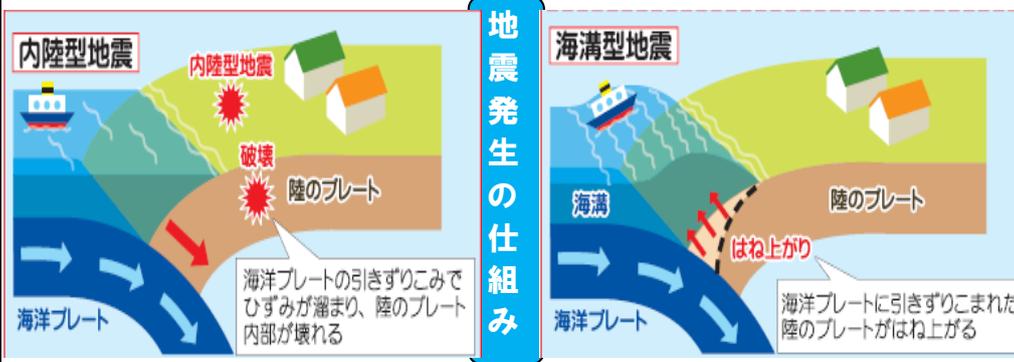
- ・危険等発生時対処要領や避難訓練などに対するチェックや助言
- ・学校と地域の防災関係機関等との連携体制の構築に関する指導や助言

◎災害ボランティア活動の推進

- ・被災地での災害ボランティア活動について学ぶ
- ・ボランティア活動への意識を高める取組

各学校に配付してあります「実践的防災教育実践事例集」を参照してください。

地震発生メカニズム



日本は世界有数の「地震国」です

- 日本は、世界の陸地の0.3%にも満たない国土ですが、**世界で発生する地震の約10%が日本とその周辺で発生**しています。
- 地震には、活断層で発生する**内陸型地震**や、プレート（固い岩石の層）同士の境目付近で起こる**海溝型地震**があります。
- 地震は突然発生**するので、いつ、どこで起こるか**を正確に知ることは困難**です。



日頃の備えが大切 〈みんなで防災！ガイドブック 熊本県から〉



☆覚えてください☆

「揺れたら」どうする？

- ◆地震発生時の基本行動は、どこにいても、「**上からものが落ちてこない**」「**横からものが倒れてこない**」「**ものが移動してこない**」場所に素早く身を寄せて安全を確保することです。

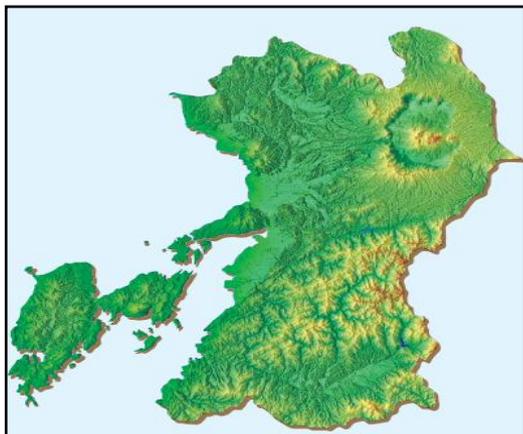
◆自分の命を自ら守るため、日頃から**防災**に関心を持ちましょう

◆中高生は地域のために貢献できる存在です。**地域の行事等**へ積極的に参加しましょう



平成26年8月27日号
熊本県教育庁教育指導局体育保健課

知っていますか？ 熊本県の地域特性 ～地域を知り、自然災害に備えましょう～



熊本県は、九州の中央に位置し、北、東、南の三方を山岳に囲まれ、熊本や八代の平野、山鹿や人吉の盆地、そして天草の島々など、多様な地形を有しています。

気象の面では、東シナ海からの暖かい湿った空気の流れ込みにより、**洪水や土砂災害**が引き起こされています。

また、**台風の常襲地域**でもあり、干満の差の大きい有明海や八代海の内湾では、しばしば**高潮災害**が発生しています。

県の観光名所である阿蘇山は、世界最大級のカルデラを持つ**活火山**でもあり、現在まで噴火活動を繰り返しています。

さらに、県内には、**布田川・日奈久断層帯**や**人吉盆地南縁断層**などの**活断層**もあり、様々な災害を引き起こすおそれがあります。

〈みんなで防災！ガイドブック 熊本県から〉

東日本大震災の教訓に学ぶ

NO. 1

東日本大震災では、ハザードマップの情報や高い防潮堤を過信し、避難せずに犠牲になる人が続出しました。大きな災害が発生したときは、施設等を過信することなく、一刻も早く避難することを優先しましょう。

避難三原則

その1「想定にとらわれるな」

- ・災害時は、想定外の事態も起こりうる。ハザードマップなどの情報を鵜呑みにしない。

その2「最善を尽くせ」

- ・自然災害の中では、いかなる状況下においても、その時できることに全力を注ぐ。

その3「率先避難者たれ」

- ・いざという時は率先して避難する。その姿が他の人の避難を促し、多くの命を救うことにつながる。

〈片田 敏孝 群馬大学教授〉



◆ 自分の命を自ら守るため、日頃から**防災**に関心を持ちましょう

◆ 中高生は地域のために貢献できる存在です。**地域の行事等**へ積極的に参加しましょう



土砂災害から身を守る

土砂災害は命に関わる重大な被害をもたらします。梅雨や台風などで短時間にたくさんの雨が降るときには特に注意が必要です。今年も梅雨時期から夏にかけて、日本各地で多くの土砂災害が発生し被害がもたらされました。特に、広島市北部では8月20日に発生した土砂災害により、多くの尊い命が失われるなど被害に見舞われました。

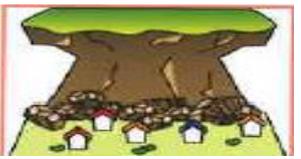
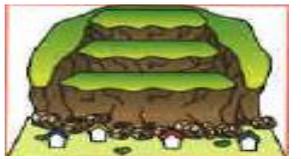
被害を最小限に抑えるためには、前兆現象を覚えておき、早めに避難をすることが大切です。

土砂災害発生のメカニズム



- ◆土砂災害は、大雨や融雪、地震、火山噴火などによって発生します。
- ◆梅雨や台風などの雨が多く降る時期は注意が必要です。
- ◆1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリ以上の降水量になったら十分な注意が必要です。
- ◆**命に関わる災害です。大雨情報や土砂災害警戒情報に注意し、早めの避難を心がけましょう**

みんなで防災！ ハンドブック 熊本県から

<p>土石流</p> 	<p>がけ崩れ</p> 	<p>地すべり</p> 
<p>長雨や集中豪雨によって、石や土砂が水と一緒に一気に流れ出す現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山鳴りがする ・急に川の流れが濁り、流木が混ざっている。 ・土臭いにおいがする。 ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる。 	<p>長雨や集中豪雨によって、斜面が急に崩れ落ちる現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・崖から水が湧き出してくる。 ・崖に亀裂が入る。 ・崖から小石がバラバラ落ちてくる。 ・崖から木の根が切れる等の異様な音がする。 ・家や擁壁、樹木や電柱が傾く。 	<p>地下水などが粘土のような滑りやすい地面にしみこんで、その影響で地面が動き出す現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沢や井戸の水が濁る。 ・地面にひび割れができる。 ・斜面から水が湧き出す。 ・家や擁壁に亀裂が入る。 ・家や擁壁、樹木や電柱が傾く。

- ◆自分の命を守るため、日頃から防災に関心を持ちましょう。
- ◆中高生は地域のために貢献できる存在です。地域行事等へ積極的に参加しましょう。



平成26年10月29日 第5号
熊本県教育庁教育指導局体育保健課

今年9月には御嶽山の噴火により甚大な被害がもたらされました。わが国は世界有数の火山国であり、その数は108にのぼります。その一つ阿蘇山は、過去に何度も噴火を繰り返し、今も活発に活動する活火山です。

被害を最小限に抑えるためには、火山に関する情報を正しく理解することが大切です。

噴火のメカニズム



- 火山噴火は、陸や海のプレートや地下のマントルの動きと深く関わっています。
- 地下深くにあるマントルは、温度が高い岩でできていますが、その一部が溶けて「マグマ」となります。
- このマグマ（溶けた岩石）は、プレート（固い岩石）に圧迫されて、地表に向かって上がってきます。
- これが「噴火」のメカニズムです。

噴火災害発生の事例



雲仙・普賢岳は平成2年11月17日、198年ぶりに噴火を開始しました。火砕流の発生は数千回にもおよび、焼失した家屋は820棟、44名もの尊い人命が失われました。

阿蘇山でも過去に災害が発生していません。（昭和33年 噴石による死者12名、昭和54年 噴石による死者3名）

〈みんなで防災！ ガイドブック 熊本県から〉

JICA課題別研修「土砂災害防止マネジメント」研修生の受入

南阿蘇村立久木野中学校

10月17日(金) JICAの課題別研修が南阿蘇村立久木野中学校で実施されました。

インド、マレーシア、ペルーなど様々な国から15人の研修生を迎え、久木野中の防災教育の取組について説明がなされました。作田潤一校長から緊急地震速報を活用したショート訓練や様々な課題を想定した自主防災訓練の取組などが紹介された後、3年生の生徒たちによる取組発表が行われました。生徒たちからは流暢な英語で「自然災害は怖いですが、我々は自然からたくさんの恩恵を受けていることも学ぶことができた」「想定を変えた避難訓練を実施したことで、日頃から防災を意識した生活ができるようになった」などの感想が述べられ、研修生たちも熱心に聞き入っていました。



わが国は世界有数の地震国であり、これまで何度も地震に襲われ、大きな被害を受けてきました。長野県では11月22日に最大震度6弱の地震が発生し、甚大な被害がもたらされました。原因として「神城断層」という活断層が動いた可能性が高いとされています。

熊本県にも布田川・日奈久断層帯等の活断層があり、過去に大きな地震が発生しています。いつ起こるか分からない地震から身を守るためには、日頃からの備えが必要です。

【日頃の備え】 備えることで危険は減らせます

【家具の固定】

○家具の固定は、今すぐできる地震対策です。**家具が転倒や移動をしないように、しっかりと固定**しておきましょう。

○家の中に閉じ込められないように、**家具の向きや配置を工夫**しましょう。

【消火の備え】

○火災発生に備えて、消火器を準備しておきましょう。

【家族間での話し合い】

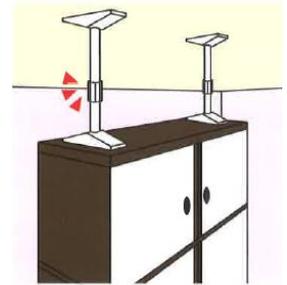
○離れ離れになった場合の**安否の確認方法**を決めておきましょう。

○**避難場所や避難経路を確認**しておきましょう。

○防災に関する**講演会などに家族で参加**しましょう

【非常用品の用意】

○いざ、急いで避難しなければならないとき、何をどれだけ持って行くか、とっさに判断できるものではありません。**非常用品は日頃から用意**しておきましょう。



【地震が起こったら】「身の安全」を最優先に行動を

【屋内にいるとき】

○揺れを感じたら、**まず丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠**しましょう。

○揺れがおさまるまでは、**あわてて外へ飛び出さず、落ち着いて行動**しましょう。

○揺れがおさまったら、**あわてずに火の始末**をしましょう。

○割れたガラス等を踏んでけがをしないように、**スリッパや靴を履いて移動**しましょう。

【屋外にいるとき】

○**カバンや手荷物などで頭を保護**し、公園や空き地など**落下物の危険のない安全な場所へ避難**しましょう。

【電車やバスに乗っているとき】

○座席に座っているときは、**頭を保護して姿勢を低く**しましょう。

○立っているときは、**転倒しないようにすり革や手すり**に**しっかりつかまり**ましょう。



学校

防 災

通信

平成27年1月7日 第7号
熊本県教育庁教育指導局体育保健課

地震等の自然災害が発生し、急いで避難しなければならないとき、何をどれだけ持って行くか、とっさに判断できるものではありません。非常用品は日頃から用意しておくなど「日頃からの備え」が大切です。

何を用意すればいいの？



普段から準備し、持ち出しやすい場所に備えておくことがポイントです。

◎**非常持出品** いざ、避難するときに、とっさに持ち出すものです。これだけは最低限、用意しておきましょう。

避難用具	■懐中電灯 ■携帯ラジオ ■予備の乾電池 ■ヘルメット・防災ずきん
生活用品	■厚手の手袋 ■毛布 ■缶切り ■ライター・マッチ ■ナイフ ■携帯用トイレ
救急用具	■救急箱 ■処方箋控え ■胃腸薬等
非常食品	■乾パン ■缶詰 ■栄養補助食品 ■アメ・チョコレート ■飲料水
衣料品	■下着・靴下 ■長袖・長ズボン ■防寒用ジャケット・雨具
その他	■携帯用カイロ



◎**備蓄品** 救助が届くまでの数日間（3日間が目安）を自給自足できるよう準備しておくものです。災害後に取り出しやすく運びやすいよう、ケースにまとめ、倉庫、物置、キッチン、押し入れなど、いくつかの小分けにして備蓄しておくことと便利です。

食料品	■いし食品（ごはん・おかゆ等）・アルファ米 ■インスタントラーメン・カップみそ汁 ■飲料水
生活用品	■給水用ポリタンク ■カセットコンロ ■ティッシュペーパー・ウエットティッシュ ■簡易トイレ ■紙皿・紙コップ・割りばし ■ラップフィルム ■水不要シャンプー ■ビニール袋 ■ロープ ■工具セット ■ほうき・ちりとり ■ランタン ■長靴

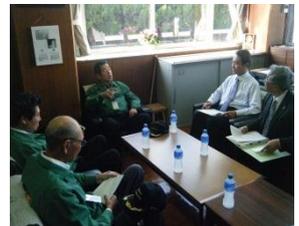
「みんなで防災 ガイドブック」熊本県より

実践的防災教育総合支援事業に係る避難訓練が行われました

11月27日（木）に実践的防災教育総合支援事業のモデル校である八代市立郡築小学校と八代市立第七中学校で避難訓練が実施されました。それぞれの学校で緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練や災害ボランティア体験者による講話、起震車体験等が実施されました。

多くの地域住民の参加や関係機関の協力も得られ、より実践的な避難訓練となりました。

また、訓練終了後には、避難訓練の反省会が行われ、学校防災アドバイザーから、「机の下に潜ったら、机の脚をしっかりと握るように指導してほしい」「地域住民と合同で訓練を行うことで、学校だけでは気付けない課題が見え、より実践的な訓練につながる」等の助言がありました。





平成7年に発生し、未曾有の被害をもたらした「阪神・淡路大震災」から20年が経ちました。この震災から得た教訓を引き継いでいくことはとても大切なことです。

突然起こる災害。犠牲者を少しでも減らすためには、近隣住民の助け合いが極めて重要です。地域で自主防災組織をつくり、災害に備えることは大切なことです。

阪神・淡路大震災の概要 (神戸市消防局より)

日 時	平成7年1月17日(火) 5時46分
規 模	マグニチュード7.3
震 度	7
特 徴	大都市直下型 横揺れと縦揺れ
死 者	6,434人
負傷者	43,792人
全・半壊棟数	249,180棟

自主防災組織とは

○右の表は、阪神・淡路大震災のときに、生き埋めになったり閉じ込められた人が誰に救助されたかを示したものです。これを見ると、**およそ9割**の方が自力・家族**(自助)**もしくは、近所の人などの助け合い**(共助)**で助かっていることが分かります。

【生き埋めや閉じ込められた際の救助】

救助者	割合
自力	7割 (自助)
家族	
友人・隣人	2割 (共助)
その他	
救助隊	1割 (公助)
その他	

兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書(日本火災学会)

○東日本大震災など、大規模な災害になればなるほど、災害で道路が寸断されたり、自ら被災したりするため、消防・警察・自衛隊をはじめとした公的機関などによる救助(公助)だけでは限界があります。このため、災害のときに命を守るには、迅速な救助や避難を行うための『自助』『共助』が極めて重要になります。



○自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを目的に、地域で自発的に結成され、防災活動を行う組織をいいます。『自助』と『共助』を組織的・効果的に行い、災害犠牲者を減らせるよう、それぞれの地域で結成しておく必要があります。

みんなで防災 ハンドブック 熊本県より

◆日頃から、地域行事に参加したり挨拶や会話をしたりするなど、地域の方とコミュニケーションをとりましょう。

◆地域の防災訓練等には積極的に参加しましょう。



平成27年3月12日 第9号
熊本県教育庁教育指導局体育保健課

東日本大震災から学ぶ

平成23年3月11日に発生し、未曾有の被害をもたらした「東日本大震災から」から4年が経ちました。

この大震災の教訓から多くのことを学び、それを今後の防災に活かしていくことはとても大切なことです。

文部科学省が被災3県（岩手・宮城・福島）の全ての学校等に行った「東日本大震災における学校等の対応等に関する調査（平成24年3月）」を見ても日頃からの防災教育の必要性が分かります。

東日本大震災概要 内閣府(平成23年10月26日時点)	
日 時	平成23年3月11日(金) 14時46分
規 模	マグニチュード9.0
余 震	マグニチュード7以上6回
死 者	15,829人
行方不明者	3,725人
全壊棟数	118,822戸
全・半壊棟数	184,615戸



【1】避難訓練の内容

◎避難訓練で、火災は約98%、地震は約94%の学校等で実施されていた。

【2】地震に対する避難訓練での重点内容

◎初動の落下物への対応などの避難行動、次いで円滑な二次避難場所への避難や避難経路の確認、落ち着いて行動することなどに重点を置いていた。

【3】避難訓練への参加団体

◎地震に対する避難訓練は、約5割の学校等で消防署が参加して行われていた。

【4】地震に対する避難訓練で地域住民や組織・団体と連携したことによる効果

◎専門的な立場からの助言により、児童生徒の防災に対する意識が高まった、緊張感が高まった。具体的な行動について理解したなどの効果が挙げられている。

【5】事前の避難訓練は、今回の震災において、どのような点で活かされたか

◎教職員の連携や地震発生時の児童生徒等への安全確保への効果が認められた。
幼稚園、小学校では「保護者への引き渡し」への効果も認められた。

【6】事前の訓練が今回の震災に活かされなかった点

- ◎避難訓練が通常の学習時間を想定していたものだけであった点
- ◎停電等による放送機器が使えず避難誘導ができなかった点
- ◎通信網の遮断により安否確認ができなかった点
- ◎保護者への引き渡しに時間を要した点
- ◎避難所の開設訓練を行っていなかった点
- ◎避難所運営と安否確認を同時に行わざるを得ず混乱した点

